

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年12月15日

【四半期会計期間】 第108期第1四半期（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）

【会社名】 虹技株式会社

【英訳名】 KOGI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堀田 一之

【本店の所在の場所】 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町4丁目1番地

【電話番号】 姫路(079)236 - 3221

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 谷岡 宗

【最寄りの連絡場所】 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町4丁目1番地

【電話番号】 姫路(079)236 - 3221

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 谷岡 宗

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社において不適切な会計処理がなされた可能性があることについて、当社と利害関係のない専門家で構成される第三者委員会を設置し調査を進めてまいりました。平成26年12月12日、第三者委員会から調査結果の報告を受け、連結財務諸表の修正等、必要と認められる訂正を行うことといたしました。

これらの決算訂正により、当社が平成24年8月10日に提出いたしました第108期第1四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表につきましては、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

また、四半期連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所については、XBRLの修正も行いましたので併せて修正後のXBRL形式のデータ式(表示情報ファイルを含む)を提出いたします。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第4 経理の状況

##### 1 四半期連結財務諸表

###### (1) 四半期連結貸借対照表

###### (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

###### 四半期連結損益計算書

###### 四半期連結包括利益計算書

##### 注記事項

###### (セグメント情報等)

###### (1株当たり情報)

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_線を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

連結経営指標等

回次	第107期 第1四半期連結 累計期間	第108期 第1四半期連結 累計期間	第107期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	3,878	3,930	17,540
経常利益 (百万円)	202	105	973
四半期(当期)純利益 (百万円)	114	53	561
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	147	111	650
純資産額 (百万円)	8,327	8,776	8,830
総資産額 (百万円)	20,909	21,531	20,682
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	3.47	1.62	17.00
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	36.6	37.0	39.2

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

連結経営指標等

回次	第107期 第1四半期連結 累計期間	第108期 第1四半期連結 累計期間	第107期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	3,878	3,930	17,540
経常利益 (百万円)	174	23	787
四半期(当期)純利益 (百万円)	98	3	451
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	131	61	540
純資産額 (百万円)	8,299	8,604	8,708
総資産額 (百万円)	20,881	21,359	20,560
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	2.97	0.10	13.67
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	36.5	36.5	38.8

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 第2【事業の状況】

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要などがけん引し、ゆるやかに持ち直しつつあるものの、欧州の金融不安や中国経済の減速感、円高の長期化や電力供給の制約など予断を許さぬ状況で推移いたしました。

このような状況のもとで当社グループは、「虹技の品質」をスローガンに、第3次3カ年計画の最終年度にあたり、「品質 ナンバーワンをめざす」、「技術開発への取り組みの強化」、「教育の充実」、「財務体質の更なる強化」の4つの基本方針に基づく重要課題を達成すべく、全社をあげて実行計画を推し進めてまいりました。

このような結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高39億3千万円(前年同期比 1.3%増)、営業利益9千5百万円(前年同期比 55.3%減)、経常利益1億5百万円(前年同期比 48.1%減)、四半期純利益5千3百万円(前年同期比 53.4%減)となりました。

なお、上記の経常利益には、退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)を、1億2千7百万円(前年同期 5千9百万円)、同じく四半期純利益には、7千8百万円(前年同期 3千5百万円)を含んでおります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 鋳物関連事業

鋳型は、自動車向け需要増による特殊鋼メーカー各社の鋳型需要により堅調に推移しました。自動車用プレス金型鋳物は、国内金型市場の縮小により厳しさが続いております。大型産業機械用鋳物は、主要顧客先である工作機械業界の海外需要の先行き不安を背景に、売上高は前年同期を下回りました。ロールは、海外向け大口物件の売上は前年同期を上回りましたが、国内需要の低迷により、厳しい状況で推移しました。小型鋳物は、下水道鉄蓋や電線共同溝用鉄蓋は厳しい状況が続いておりますが、機械鋳物類の売上拡大により、売上高は前年同期を上回りました。デンスパーは、中国向け建設機械や油圧機器の需要減や長引く円高により、国内需要、海外向け需要とも影響がありました。

また、中国国内で自動車用プレス金型鋳物の生産・販売を手がける天津虹岡鋳鋼有限公司は、引き続き堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は、33億4千2百万円(前年同期比 2.9%増)、経常利益2億2千2百万円(前年同期比 10.1%減)となりました。

#### その他の事業

送風機は、国内外の製鉄プラントならびに環境関連向けを中心に売上高は前年同期を上回りました。環境・省エネ商品のトランスバクターも鉄鋼やIT向け冷却装置を中心に売上高は前年同期を上回りました。KCメタルファイバーは、売上量増加による生産増などにより堅調に推移しました。環境装置事業は、炉修工事や保守・メンテナンス工事の受注拡大に努め、都市ゴミ焼却炉延命化工事などの大口物件の受注もありましたが、売上が年度後半となることから、当四半期の売上高は前年同期を下回りました。

この結果、当事業の売上高は、5億8千7百万円(前年同期比 6.8%減)、経常利益7千7百万円(前年同期比 28.6%増)となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、132億2千万円となり、前連結会計年度末に比べ10億6千3百万円増加いたしました。これは、主として現金及び預金が10億4千万円増加したことなどによります。

固定資産は、83億1千万円となり、前連結会計年度末に比べ2億1千4百万円減少いたしました。

この結果、総資産は、215億3千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億4千8百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、86億7千万円となり、前連結会計年度末に比べ3億3千5百万円増加いたしました。

固定負債は、40億8千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億6千6百万円増加いたしました。これは、主として長期借入金が6億7千5百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、127億5千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億2百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、87億7千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ5千3百万円減少いたしました。これは、剰余金の配当により利益剰余金が減少したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の39.2%から37.0%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は1千3百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、鋳物事業市場の成熟化が進むなか、競合の激化、事業環境の急激な変化、先行き不透明な経済状況など、依然として予断を許さない状況が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、第3次3カ年計画の諸施策を着実に実行し、強固な企業体質の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

(訂正後)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要などがけん引し、ゆるやかに持ち直しつつあるものの、欧州の金融不安や中国経済の減速感、円高の長期化や電力供給の制約など予断を許さぬ状況で推移いたしました。

このような状況のもとで当社グループは、「虹技の品質」をスローガンに、第3次3カ年計画の最終年度にあたり、「品質 ナンバーワンをめざす」、「技術開発への取り組みの強化」、「教育の充実」、「財務体質の更なる強化」の4つの基本方針に基づく重要課題を達成すべく、全社をあげて実行計画を推し進めてまいりました。

このような結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高39億3千万円(前年同期比 1.3%増)、営業利益1千4百万円(前年同期比 92.2%減)、経常利益2千3百万円(前年同期比 86.3%減)、四半期純利益3百万円(前年同期比 96.8%減)となりました。

なお、上記の経常利益には、退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)を、1億3千万円(前年同期 6千万円)、同じく四半期純利益には、8千万円(前年同期 3千5百万円)を含んでおります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

鋳物関連事業

鋳型は、自動車向け需要増による特殊鋼メーカー各社の鋳型需要により堅調に推移しました。自動車用プレス金型鋳物は、国内金型市場の縮小により厳しさが続いております。大型産業機械用鋳物は、主要顧客先である工作機械業界の海外需要の先行き不安を背景に、売上高は前年同期を下回りました。ローラーは、海外向け大口物件の売上は前年同期を上回りましたが、国内需要の低迷により、厳しい状況で推移しました。小型鋳物は、下水道鉄蓋や電線共同溝用鉄蓋は厳しい状況が続いておりますが、機械鋳物類の売上拡大により、売上高は前年同期を上回りました。デンスパーは、中国向け建設機械や油圧機器の需要減や長引く円高により、国内需要、海外向け需要とも影響がありました。

また、中国国内で自動車用プレス金型鋳物の生産・販売を手がける天津虹岡鋳鋼有限公司は、引き続き堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は、33億4千2百万円(前年同期比 2.9%増)、経常利益1億4千4百万円(前年同期比 34.3%減)となりました。

その他の事業

送風機は、国内外の製鉄プラントならびに環境関連向けを中心に売上高は前年同期を上回りました。環境・省エネ商品のトランスベクターも鉄鋼やIT向け冷却装置を中心に売上高は前年同期を上回りました。KCメタルファイバーは、売上量増加による生産増などにより堅調に推移しました。環境装置事業は、炉修工事や保守・メンテナンス工事の受注拡大に努め、都市ゴミ焼却炉延命化工事などの大口物件の受注もありましたが、売上が年度後半となることから、当四半期の売上高は前年同期を下回りました。

この結果、当事業の売上高は、5億8千7百万円(前年同期比 6.8%減)、経常利益7千7百万円(前年同期比 28.6%増)となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、130億4千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億1千3百万円増加いたしました。これは、主として現金及び預金が10億4千万円増加したことなどによります。

固定資産は、83億1千万円となり、前連結会計年度末に比べ2億1千4百万円減少いたしました。

この結果、総資産は、213億5千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億9千8百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、86億7千万円となり、前連結会計年度末に比べ3億3千5百万円増加いたしました。

固定負債は、40億8千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億6千6百万円増加いたしました。これは、主として長期借入金が6億7千5百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、127億5千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億2百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、86億4百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億3百万円減少いたしました。これは、剰余金の配当により利益剰余金が減少したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の38.8%から36.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は1千3百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、鋳物事業市場の成熟化が進むなか、競争の激化、事業環境の急激な変化、先行き不透明な経済状況など、依然として予断を許さない状況が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、第3次3カ年計画の諸施策を着実に実行し、強固な企業体質の実現と企業価値の向上に努めてまいります。



## 第4【経理の状況】

(訂正前)

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

(訂正後)

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受け、改めて四半期レビュー報告書を受領しております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,028	4,069
受取手形及び売掛金	4 5,791	4 5,538
商品及び製品	1,201	1,393
仕掛品	1,075	1,146
原材料及び貯蔵品	820	837
繰延税金資産	102	95
その他	202	148
貸倒引当金	66	8
流動資産合計	12,156	13,220
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,185	1,193
機械装置及び運搬具(純額)	2,093	2,087
土地	795	795
その他(純額)	1,116	1,184
有形固定資産合計	5,191	5,261
無形固定資産	18	16
投資その他の資産		
投資有価証券	1,256	1,120
前払年金費用	1,924	1,775
その他	137	137
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	3,315	3,032
固定資産合計	8,525	8,310
資産合計	20,682	21,531

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,610	3,454
短期借入金	3 2,415	3 3,192
未払法人税等	271	79
賞与引当金	112	85
その他	1,924	1,857
流動負債合計	8,334	8,670
固定負債		
社債	150	150
長期借入金	2,673	3,348
繰延税金負債	459	356
未払役員退職慰労金	63	63
退職給付引当金	67	70
環境対策引当金	101	91
その他	4	3
固定負債合計	3,517	4,084
負債合計	11,852	12,754
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,002	2,002
資本剰余金	587	587
利益剰余金	5,437	5,325
自己株式	67	67
株主資本合計	7,959	7,848
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	213	126
繰延ヘッジ損益	19	1
為替換算調整勘定	55	10
その他の包括利益累計額合計	138	114
新株予約権	5	5
少数株主持分	725	808
純資産合計	8,830	8,776
負債純資産合計	20,682	21,531

(訂正後)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,028	4,069
受取手形及び売掛金	4 5,791	4 5,538
商品及び製品	1,094	1,192
仕掛品	976	1,059
原材料及び貯蔵品	820	837
繰延税金資産	186	211
その他	202	148
貸倒引当金	66	8
流動資産合計	12,035	13,048
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	1,185	1,193
機械装置及び運搬具(純額)	2,093	2,087
土地	795	795
その他(純額)	1,116	1,184
有形固定資産合計	5,191	5,261
無形固定資産	18	16
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,256	1,120
前払年金費用	1,924	1,775
その他	137	137
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	3,315	3,032
固定資産合計	8,525	8,310
資産合計	20,560	21,359

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,610	3,454
短期借入金	3 2,415	3 3,192
未払法人税等	271	79
賞与引当金	112	85
その他	1,924	1,857
流動負債合計	8,334	8,670
固定負債		
社債	150	150
長期借入金	2,673	3,348
繰延税金負債	459	356
未払役員退職慰労金	63	63
退職給付引当金	67	70
環境対策引当金	101	91
その他	4	3
固定負債合計	3,517	4,084
負債合計	11,852	12,754
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,002	2,002
資本剰余金	587	587
利益剰余金	5,315	5,153
自己株式	67	67
株主資本合計	7,838	7,676
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	213	126
繰延ヘッジ損益	19	1
為替換算調整勘定	55	10
その他の包括利益累計額合計	138	114
新株予約権	5	5
少数株主持分	725	808
純資産合計	8,708	8,604
負債純資産合計	20,560	21,359

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 1 四半期連結累計期間】

( 訂正前 )

( 単位 : 百万円 )

	前第 1 四半期連結累計期間 ( 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月30日 )	当第 1 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日 )
売上高	3,878	3,930
売上原価	3,197	3,354
売上総利益	681	575
販売費及び一般管理費	466	479
営業利益	214	95
営業外収益		
受取利息及び配当金	12	12
貸倒引当金戻入額	18	58
その他	3	5
営業外収益合計	33	75
営業外費用		
支払利息	27	23
支払補償費	-	33
その他	17	9
営業外費用合計	44	66
経常利益	202	105
税金等調整前四半期純利益	202	105
法人税、住民税及び事業税	60	71
法人税等調整額	11	58
法人税等合計	71	12
少数株主損益調整前四半期純利益	131	92
少数株主利益	16	38
四半期純利益	114	53

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	3,878	3,930
売上原価	3,225	3,435
売上総利益	652	494
販売費及び一般管理費	466	479
営業利益	186	14
営業外収益		
受取利息及び配当金	12	12
貸倒引当金戻入額	18	58
その他	3	5
営業外収益合計	33	75
営業外費用		
支払利息	27	23
支払補償費	-	33
その他	17	9
営業外費用合計	44	66
経常利益	174	23
税金等調整前四半期純利益	174	23
法人税、住民税及び事業税	60	71
法人税等調整額	0	89
法人税等合計	60	18
少数株主損益調整前四半期純利益	114	42
少数株主利益	16	38
四半期純利益	98	3

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	131	92
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22	87
繰延ヘッジ損益	0	17
為替換算調整勘定	38	88
その他の包括利益合計	16	19
四半期包括利益	147	111
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	112	29
少数株主に係る四半期包括利益	35	82

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	114	42
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22	87
繰延ヘッジ損益	0	17
為替換算調整勘定	38	88
その他の包括利益合計	16	19
四半期包括利益	131	61
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	95	20
少数株主に係る四半期包括利益	35	82



【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

・前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	鋳物関連事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
売上高					
外部顧客への売上高	3,247	630	3,878	-	3,878
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,247	630	3,878	-	3,878
セグメント利益	247	60	308	105	202

(注) 1. セグメント利益の調整額 1億5百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 6千1百万円、営業外収益が3千3百万円、支払利息を除いた営業外費用が 1千7百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 5千9百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

・当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	鋳物関連事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
売上高					
外部顧客への売上高	3,342	587	3,930	-	3,930
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2	2	2	-
計	3,342	590	3,932	2	3,930
セグメント利益	222	77	300	195	105

(注) 1. セグメント利益の調整額 1億9千5百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 7千6百万円、営業外収益が1千7百万円、支払利息を除いた営業外費用が 9百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 1億2千7百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(訂正後)

・前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	鋳物関連事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
売上高					
外部顧客への売上高	3,247	630	3,878	-	3,878
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,247	630	3,878	-	3,878
セグメント利益	220	60	280	105	174

(注) 1. セグメント利益の調整額 1億5百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 6千1百万円、営業外収益が3千3百万円、支払利息を除いた営業外費用が 1千7百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 6千万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

・当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	鋳物関連事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
売上高					
外部顧客への売上高	3,342	587	3,930	-	3,930
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2	2	2	-
計	3,342	590	3,932	2	3,930
セグメント利益	144	77	222	198	23

(注) 1. セグメント利益の調整額 1億9千8百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 7千6百万円、営業外収益が1千7百万円、支払利息を除いた営業外費用が 9百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 1億3千万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

(訂正前)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3円47銭	1円62銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	114	53
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	114	53
普通株式の期中平均株式数(千株)	33,029	33,029
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円97銭	10銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	98	3
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	98	3
普通株式の期中平均株式数(千株)	33,029	33,029
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月15日

虹技株式会社

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	武田宏之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石田博信

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている虹技株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、虹技株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成24年8月10日に四半期レビュー報告書を提出した。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。